

令和3年度 専門課程 学校関係者評価委員会議事録

1. 日 時：令和4年3月14日（月）16時～

2. 会 場：新校舎トラス1F

3. 委員名簿：

名 前	所 属	任 期	種別
青木 伸晃	株式会社トーカイ・アピ ア 取締役専務	令和3年3月～令和5年3月（2年）	卒業生
石原 傳也	株式会社オブリ 代表取締 役	令和3年3月～令和5年3月（2年）	元保護者会 長
大角 勇雄	大垣タクシー株式会社 代 表取締役	令和3年3月～令和5年3月（2年）	学校評議員

学校側参加者：校長 平野 宏司、副校長 岡本 春信、ファッション科主任 久保田百合子
情報デザイン科主任 西村 佳子

4. 学校関係者評価の基本方針

卒業生、保護者、地域住民、企業、学識経験者等の委員からなる学校関係者評価委員会は、当校の教育活動についてそれぞれの立場や知見、経験から意見を述べ評価を行う。委員会の評価結果を当校ホームページに公表するとともに、PDCA サイクルにより教育活動その他の学校運営の改善に活かすことを基本方針とする。

5. 議事

(1) 開会の言葉（岡本副校長）

(2) 校長挨拶（平野校長）

(3) 学校より説明

ア 業実践専門課程および学校関係者評価委員会の説明（岡本）

○「職業実践専門課程」とは・・・専門学校のうち、企業等と密接に連携して、最新の実務の知識・技術・技能を身につけられる実践的な職業教育に取り組む学科を文部科学大臣が「職業実践専門課程」として認定する。

認定のポイント

① 「教育課程編成委員会」を設置 ②企業等と連携して授業を実施 ③企業等と連携して教員研修を実施

④ 「学校関係者評価」を実施 ⑤ HPでカリキュラム他の情報提供

学校関係者評価委員会は、職業実践専門課程の認定を目指す中で、本校の実践的な職業教育・専門教育の質的向上を図ることを目的とする。

○令和2年3月25日 職業実践専門課程の認定を受ける。

○今年度、職業実践専門課程生に対する奨学金があり、1名いただけた。

○3月3日、初めての卒業生には「職業実践専門課程」の文言をいれた称号授与書をわたした。

イ スライドによる今年度のようすと来年度の教育課程計画

成果

○ファッション科 基本アイテム（スカート・パンツ・シャツ等）の製作、ファッションショーの実施、自国の服装製作（自国文化の尊重）理論系科目の理解（検定）NDK コンテスト最優秀賞、OFF デザイン画最優秀賞、その他検定多数合格（日本人）

○情報デザイン科 基本的なビジネスソフト及びプログラム（アルゴリズム）の理解、プレゼンテーション練習に力をいれた。

校内の検定（データ加工技術検定、オンラインショップ検定）創設

○留学生は日本語検定に力をいれた。 N1 1名 N2 2名 合格 N3以上の保有率48%

○日本人就職100% 留学生は苦戦、留学生当校で2名、アシスタントとして採用予定

課題 ○コンテストなどが中止となっているので、技術を検定化して目標を作る。留学生には、奨学金給付を行う。(例えば日本語検定N2以上取得、皆勤等) ○日本人と留学生の技術差が大きい。(特にファッション科) 留学生に手がかかるぶん、日本人にももっと指導が必要であるので来年度別授業を増やす。○学習外の留学生支援(交通事故があった、コロナで学費が滞る、学生同士の小さなトラブル、コロナに次々と感染した、アルバイトでオーバーワーク(1人ビザ更新されず)、夜中のアルバイトによる疲労で出席不足、出席条件をきびしくした(8割で進級可の規定を1月以降9割とした) ○コロナの影響で、今年度も学園祭・大垣ファッションフェスティバルができなかった。(専門課程のみでオープンデイ実施、卒業式にはビデオ上映) ○コロナ感染のためZoomで遠隔授業を行った。来年度もありえるので準備が必要。○少しでも卒業後の働き口を開拓するため、特定技能の科目を強化する。今年度数人合格し、就職する。

今回の教育課程改善点のポイント

ファッション科

①科目の精選「デザイン学」2単位において、当校は最先端のロボット「ペッパー」について、ファッション科では服装デザイン、情報デザイン科ではロボットプログラミングを行ってきたが、ICTの進展は現在のところ、ロボットのような実態としてのハード以上に、活用度の高いソフトで顕著である。従い、デザインで培った知見は、「デザイン画」「ディスプレイ学」の中で生かすこととし、総合計26→24単位とする。ただし、時数の確保が必要なため、夏期休業、冬期休業を減じて調整する。また日本人はファッション系の検定学習をさらに強化するため、選択必修科目として2単位を大切にしたい。

情報デザイン科

①情報デザイン科「専攻科」の設置

社会の高度情報化が進み、従前の2年間の教育カリキュラムでの限界が生じている。専修学校入学前の高等学校教育課程では、高度情報化社会で必要とされるスキルのひとつであるプログラミングについては、一般的に単位取得している高校生が少なく、従い、当校入学生にはプログラミングを基本から教える必要があるが、プログラミングを本格的に取り組む意思のあるものには、最新のスキルを、さらに1年間集中的に取り組む必要があると考える。

②科目の精選 昨年度「ITリテラシー」「ビジネスマナー」として比較的留学生にもわかりやすい科目を1単位ずつ行っていたが、それぞれ「ビジネス業務」の中で最新のIT事情と従来からのビジネスマナーやスキルを取り扱うことで関連性を意識して学べることから、それぞれの科目を廃止し、総合計26→24単位とする。ただし、ファッション科同様、休業期間を減じて、授業時数は確保する。情報系科目については検定対策が必要なので、日本人用の検定対策を別途選択必修科目として行う。

ウ 「自己評価」学校説明 (別紙) 質疑応答

○名古屋外国人雇用センターとのかかわりは、どのような影響があるか?

→大垣にもハローワークがあるが、外国人に特化していない。東海3県では愛知県にしかない。求人のあるなしにかかわらず、学生のモチベーションアップにつながっている。

7. 全体協議

ア 昨年度のご意見と改善点

○フェイスブックに力をいれている、ということで大変よい。今後も発信に力をいれてほしい。

→今年度は、週2回以上は更新をており、フォロワーがずいぶん増えている。コロナ禍でオープンキャンパスなどが十分できなかったもので、大きな武器考えている。

○コロナが続いているが、学園としてぶれずに前に進んでほしい。

→技術取得と、人間教育の両面で指導しているつもりだが、留学生は文化の相違などがあり、なかなか難しい。しかし学園としての矜持を大切にがんばっていききたい。

○資格はどのようになっているか。留学生としては就職のために、例えば自動車免許などをもっていたほうが有利かもしれない。また企業としては日本語ができる人材がほしいので日本語検定を積極的に受けさせるとよい。

その他の検定があれば、積極的に受けさせてほしい。

→自動車免許をもっている学生が増えてきているが、事故もあったので、注意喚起している。日本語検定はN3以上を持っている学生が半数近くになったので、今後も強化していきたい。検定は来年度から本格的に導入して、モチベーションアップにつなげたい。

イ 今年度のご意見

○コロナ禍の中でよく運営されている。情報デザイン科のカリキュラムは今の時代に合ったものとなっているようである。カナダ人の先生のよい影響があるようだ。オープンデイのファッションショーは国際色がでてよかった。学校のディスプレイがとても良いのは、ボックスディスプレイで練習をしているからだということがわかった。

○アパレル業界でもオンライン化が進んでいる。情報デザイン科とファッション科でコラボをして、ファッションで製作→情報デザイン科で販売など進めてみてはどうか。また企業と連携して、発信していくとおもしろい効果があると思う。留学生の就職が困難なようだが、自分たちもできることがあれば、協力したい。

○YouTubeの画像がよくできている。VRの利用が増えてきたので、利用しては面白いものになる。企業によってはIT化に追いついていけない企業もあるので、そのような企業との懸け橋になれるとよい。名古屋からくる学生が多いようだが、大垣にコミュニティがあると留学生が大垣に定着するのではないかな。

8 校長 まとめとお礼

9 事務連絡 ○交通費の印鑑またはサインのお願い ○次回開催 令和5年3月

(学校関係者評価結果の公表方法・公表時期)

(1) ホームページ URL: <https://vn.hirano.ac.jp/>

(2) 公表時期: 令和4年5月1日